「思考廻廊のパネル」に込めた23回生の思い

「思考廻廊のパネル」の構想を初めて聞いたとき、一枚の「パネル」にどんな思いを表現したらいいか、23回生の思いをどれだけ伝えることができるか、迷うばかりでした。年取ってきた同級生からすれば、思い出を詰めたパネルでよかったかもしれません。しかし「高校時代の懐かしい思い出」だけでは、この「思考廻廊」の構想に参与した一部の同級生の思いとなり、毎日「パネル」を眺めることになる在校生にとって心に響くような作品を描いたほうがいいと考えました。そこでこれから未来に進んでいく後輩への願いを「パネル」に託すことにしました。いろんな思春期の悩みの中で、無限の可能性を秘めた未来に向かって突き進んでほしいとの先輩の思いを「パネル」に表現しました。またこの完成した「パネル」を眺めていると、年取ってきた我々ももう一度初心に帰って頑張ってみようという思いになりました。在校生の皆さんも、時には君たちのおとうさん、おかあさんに反抗したい時があるかもしれません。しかしおとうさんたちも、いつも君たちと同じように純粋に思い悩み、希望をもって過ごしてきたことが分かってもらえると思います。

階段を上っていて、ふと、この「パネル」が見えたとき、また勇気が湧いてくるような思いになってもらえたら幸いです。

上記のような思いを込めて、新進気鋭の「若い女流漫画家」にこの「パネル」を描いてもらいました。彼女からのメッセージです。

「学校の桜のように綺麗で輝かしい花道を歩き求めて欲しいという気持ちを込めて、年中散ることのないこの桜の花と、曇ることのない青空を描かせて頂きました。これからの日本を担っていく生徒さん達には、色んな未来が待っています。どんな未来にも負けない強い人になって欲しいです。」

文責　23回生　古賀善彦